

日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会 PRA 品質確保分科会  
第 36 回会合議事録

日時：2020 年 12 月 21 日（月）13:30～16:30

場所：Cisco WebEx Meeting による Web 会議

出席者（敬称略）

委員：桐本主査（電中研），藤崎幹事（関電），木村（日立 GE），  
倉本（NEL），小森（東芝 ESS），齋藤（東電 HD），櫻井（原電），  
田中（MHI），玉木（中部電），日高（テプシス），吉田（JAEA），

11 名出席

常時参加者：寺崎（九電），山本（原電エンジ）

傍聴者：なし

欠席委員：糸井（東大）

配付資料：

RK4SC36-1：第 35 回 PRA 品質確保分科会議事録案

RK4SC36-2：第 54 回リスク専門部会議事録案(品質確保抜粋)

RK4SC36-3：標準における基準と指針の定義,リスク専門部会における標準の階層化の整理について

RK4SC36-3 参考資料：基準と指針の定義-意見募集集約表

RK4SC36-4-1：IRIDM 標準英訳版の進め方について

RK4SC36-4-1 参考 1：RKTC54-07 IRIDM 標準英訳版の作成について

RK4SC36-4-1 参考 2：S3SC27-6-2 IRIDM 標準英訳版作成の進め方

RK4SC36-4-1 添付：IRIDM 標準英訳検討ワークシート

RK4SC36-5：SC81-4\_R1 標準委員会における倫理について

RK4SC36-6：PRA 品質確保分科会スケジュール案

議事：

1. 定足数の確認

委員 12 名中 11 名が出席しており，本会議が議決に必要な定足数を満足していることが確認された。

2. 前回議事録の確認（RK4SC36-1）

RK4SC36-1 に基づき，第 35 回分科会の議事録を確認し，正式版とすることが了承された。

3. 原子力施設の確率論的リスク評価における共通要求事項に関する実施基準（品質確保標準改定）のリスク専門部会の付議結果について（RK4SC36-2）

RK4SC36-2 に基づき，藤崎幹事から「原子力施設の確率論的リスク評価における共通要求事項に関する実施基準」（品質確保標準改定）のリスク専門部会への付議結果について説明があった。

4. 標準における基準と指針の定義，リスク専門部会における標準の階層化の整理について（RK4SC36-3）

RK4SC36-3 に基づき，桐本主査から標準の階層化について説明があり，分科会メンバーから意見出しをした。本分科会が終了以降で意見・コメントがあれば，別途メールにより連絡することとなった。

委員からは以下の意見が出された。

- ASME では、性能要求と仕様要求を HLR と SR で綺麗に分け過ぎているところがあり、日本から見たとき取扱いづらいところもある。これを学会標準に整合させるには、整理に相当の時間を要すると思う。
- 階層化を検討するにあたり、基準と指針の定義を修正することは必要と思う。
- 階層化後は、性能規定の部分はほぼ改定が行われず、最新知見に応じて仕様規定の部分を定期的に改定していくイメージだと思う。
- 共通要求事項基準が各 PRA 標準の上位標準として共通する性能規定を纏めるのは難しいと思う。ASME でも各 PRA で HLR が存在しており、上位的な基準(パート)は存在しない。各 PRA で跨る要求事項だけを共通要求事項基準で取り扱う方が良い。
- 階層化の検討について、現在行われているレベル IPRA 標準の改定と定義(基準・指針・技術レポートの分け方)を整合させる必要がある。

#### 5. IRIDM 標準英訳版の進め方について (RK4SC36-4)

RK4SC36-4 に基づき、倉本委員から RIDM 標準英語版の作成の進め方について説明があり、分科会メンバーで分担して英訳を実施することとなった。また、英訳の対象には、NUREG1-1855 の引用である附属書 R は含めないこととした。

英語版作成の流れとスケジュールは、以下の通り。

##### ➤ 英語版作成の流れ

(1) PRA 品質確保分科会では、附属書 O～Q、解説 15～17 を英訳する (NUREG1-1855 の引用である附属書 R は英訳しない)。

✓ 英訳はドラフト版(JANSI が英訳発注したもの)があるので、チェックを実施し、ドラフト版を修正する形で作成する。

✓ PSAM15 において、本文規定の一部(総括事項)を英訳し説明している(フルペーパー、発表スライド)。当該部分の英訳、用語は、PSAM15 のものを使用することを基本とする。

✓ 英訳作業は各委員・常時参加者で分担する。

(2) 英訳対象を各委員・常時参加者で振り分け、英訳作業を開始する。

(3) 英訳版(1次案ドラフト)について、全委員でレビュー(分科会で議論 or 2週間程度のメール審議形式)を行い、コメントを反映した英語版(1次案)を作成し、統合的安全性向上分科会分と統合する。

##### ➤ スケジュール

(1) 統合的安全性向上分科会からワークシートを受け取り次第、幹事から分担を通知し、作業開始。次回分科会までに各々提出し、英訳版(1次案ドラフト)として形にする。

(2) 分科会で議論後、メール審議を経て英訳版(1次案)を作成し、次々回の統合的安全性向上分科会(2021年3月上旬予定)までに統合する。

#### 6. 倫理教育について (RK4SC36-5)

倫理教育として RK4SC36-5 に基づき、標準策定活動における倫理についてディスカッションを実施した。

委員からは以下の意見が出された。

- 基本方針は必要条件であり、十分条件ではないと考える。例えば、リスクコミュニケーションの重要性が増している中で、標準委員会の基本方針に「説明性」や「公衆性」を求めてもいいと思う。
- 標準の継続的な改善について、必要だから改定するといった答えしか出てこないが、もっと自分自身の内側から自主的に改善に取り組めるような意識を付けていきたい。

7. 今後のスケジュール (RK4SC36-6)

K4SC36-6に基づき、今後のスケジュールについて説明があった。

8. 次回分科会日程

次回分科会は、2月24日に開催することとした。

以 上